

加賀電子株式会社
2026 年 3 月期（第 58 期） 第 3 四半期 決算
主な質問と回答
決算発表日：2026 年 2 月 12 日（木）

＜ご留意事項＞

当社は第 3 四半期においては決算説明会を開催しておりませんが、決算発表後のアナリスト、投資家との IR 面談での質疑応答を「主な質問と回答」としてまとめました。全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

Q3 決算について

質問：Q3 決算の概要を教えてください。

回答：2026 年 3 月期 Q3 決算は、売上高から最終利益までの全ての段階利益で前年同期比「増収増益」となる好調な決算でした。中でも、電子部品事業では EMS ビジネスが、そして情報機器事業ではパソコン販売やソフト販売が、それぞれ好調に推移いたしました。このような順調な業績進捗および足元でのスポット需要を織り込み、今期三度目となる上方修正を行いました。

質問：棚卸資産が大きく増加しているがこの要因は何か。今後も増えていくのか。

回答：2026 年 3 月期 Q3 末の棚卸資産は約 748 億円であり、前期末に比べて 230 億円（前年同期末比では 95 億円）増加しています。主に商社ビジネスにおいて増加していますが、主な要因は、2025 年 7 月に連結した協栄産業の棚卸資産の増加（約 73 億円）です。このほか、ものづくりビジネスでは、EMS ビジネス増収に伴う増加が 23 億円となっており、期末に向け更なる在庫圧縮を進めてまいります。

質問：中東地域における地政学的リスクやその影響はあるか。

回答：現状で大きな影響は出ていません。今後、燃料費の高騰や資材不足などで、当社に顧客先での生産調整などにより間接的に当社業績に影響が出てくる可能性もありますので、引き続き注視してまいります。

質問：EMS ビジネスが好調な要因を教えてください。

回答：メキシコ工場やタイ第 3 工場の設置など、海外拠点を中心に進めてまいりました設備投資が奏功しています。特に、医療向け、空調向けのビジネスが好調に推移し業績向上に貢献しました。

質問：情報機器事業が好調な要因を教えてください。

回答：量販店向け、教育機関向けのパソコン販売が好調なことに加え、セキュリティソフトの販売が好調に推移しました。
なお、教育機関向け PC 販売は、需要期である入学シーズン（Q1、Q4）に伸長する傾向ですが、今 Q3 においてはギガスクール向け PC 販売の受注があったことも好調な要因の一つとなりました。

質問：その他事業の直近 3 ヶ月が前年同期比も直前期比も減収減益となっているのはなぜか。

回答：米国の関税対策として、アミューズメント機器販売ビジネスにおいて前倒し出荷が前事業年度後半から当期前半まで業績を押し上げましたが、後半になり納品予定数を達成したことから一服感が出ております。

その他について

質問：シンガポール工場新設の目的を教えてください。また、なぜシンガポールに設置したのか。

回答：シンガポール工場には、当社が『自動化・省人化』をコンセプトに、中国の有力設備機器メーカーとの協業で自社開発した基板実装の自動化設備を導入しました。アセアン地域で増大する多品種小ロット生産の需要に対応することを主目的とし、加えて、これらの生産機器を外部顧客へ販売するための「ショールーム機能」、そして販売先のオペレーターを教育するための「トレーニングセンター機能」を併せ持った複合施設としての役割を担います。

このほか、中国系顧客と当社が量産工場を展開するアセアン地域を結ぶ中継地点として適していることや、現地人材において中国語、英語での対応が可能であるというシンガポール立地の利点を考慮して決定しました。

質問：『HATTEN（ハッテン）』の概要を教えてください。今後の目標はあるか。

回答：『HATTEN』は、当社のEMSビジネスが得意とする多品種小ロット生産における競争力向上を目的に、中国の有力設備機器メーカーと協業して、自社開発した生産機器です。外部顧客へも販売していますが、まずは自社工場への導入を最優先で取り組んでいますので、特に販売目標は設定していません。詳細は、当該リリースをご参照ください
(URL: https://www.taxan.co.jp/news-information/news_jp/news_cat01/news_cat20/13400)

以上